



## 核廃棄物最終処分地探しは市民参加で

世界中で難航している核のごみの最終処分地探し。

日本では北海道の自治体が名乗りを上げている。ドイツは全国を対象に地質調査をし、市民を巻き込みながら広域から適地を絞り込む予定だが、道のりは長い。9月末に、高レベル放射性廃棄物最終処分場の候補地選定の中間報告を発表した。

粘土層、岩塩層、花崗岩層が対象となるため、地質的には国内の54%が適しているとの結果となった。1977年から有力候補とされてきた北ドイツのゴアーレベンが正式に候補地から外れた。今後、2032年の処分地決定、2050年の稼働を目指す。

ドイツは東京電力の福島第一原発事故を受けて、2022年末の脱原発を決定した。原発反対の理由には、原発の危険性はもとより「最終処分場がない」という声が根強い。現在6基が稼働しているが、それぞれ2021、2022年末に3基が停止する。低レベル放射性廃棄物の処分地は決定しており、数年内の稼働を目指して工事をしている。

高レベル放射性廃棄物最終処分地については1977年に当時のニーダーザクセン州知事が、ゴアーレベンにすると突然発表してから議論を巻き起こしてきた。ゴアーレベンは旧東ドイツへの国境そばの過疎地に位置し、地下水

浸透の危険性の指摘をはじめ、冷戦時代は敵からの攻撃を危惧する声もあつたが、国は調査や整備工事をずっと進めてきた。しかしさまざまな批判を受け、ついに2013年ゴアーレベンに固執することをやめ、2017年に「最終処分地選定法」を施行。白紙の状態から、全国を対象に処分地探しをやり直すことになった。

ゴアーレベンで問題とされたのは、候補地の選考プロセスが不透明だったこと。その教訓から①専門家の声を重視②情報公開による透明性の確保③市民の声を聞く、を重点とした選定プロセスに変更した。広報活動に力を入れ、一般市民が参加できる公開討論会やワークショップを催すなど多くの人を巻き込む体制を整えた。別途、学者や議員、専門家を始め、学生など無作為に選ばれた市民委員18人からなる

Jm die Dichtheit der Behälter über die gesamte Lagerzeit kontrollieren, sind diese mit einem Doppeldeckelsystem und an das Überwachungssystem der Lagerhalle anges



核廃棄物輸送について説明する案内板  
(核廃棄物暫定保管所インフォセンター)

る社会諮問委員会(随伴委員会)をつくり、独立した組織として議論している。

10月半ばには2日間にわたって前述の中間報告についてオンライン発表会を開き、誰でも参加し発言することができた。今もネットで閲覧できる。各日9時間、6時間の催しだったが、ネットでの閲覧は各2500人、1500人にとどまっている。いかに一般市民の関心を喚起するかが課題だ。私も閲覧したが、さまざまな関係者が視聴者からの質問に答えるなど、わかりやすく説明しようとする姿勢が感じられた。

ちなみに処分地を受け入れても、日本のように桁外れの財政的優遇がなされるわけではない。国の連邦放射性廃棄物機関(BEG)は「処分地受け入は全国の負担を引き受けることだから、多少の金銭的補償は想定しているが、額など詳細は未定。地域会議を開き、地元との話し合いで決めていく」としている。処分地探しには地質など自然科学的要素と、国民心理など社会的要素が複雑に絡む。

社会全体に関わる重大事項であり「もしかしたら近所にできるかもしれない、ひとごとではない」と誰もが当事者意識を持つことが出発点となる。一部の地域に押し付けるのではなく、国全体としてどのように考えていくのか、壮大な試みは続く。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

### AKIRA の 成長記録

明のクラスでは、くじ引きで誰かが誰かに誕生日プレゼントを贈ることになっている。5~10ユーロで相手の欲しいもの(事前に紙に書いてある)を、匿名で用意するのだが、

明は二方に贈ることになった。13歳の女の子は何がほしいのか。明「マニキュアだって」私「えー、マニキュア? 子どもなのに?」明「そう。色も書いてあるよ。白とグレー」。なんと深い色。

明はどこでマニキュアを買えるのか知らない。「デパートかな」というので「デパートは高いよ。ドラッグストアにあるよ」と言うと、「そうだね。でもデパートも見る」と友達と街に出かけて、マニキュアと飾り付きゴムを買ってきました。

明にとって、女の子への、初めて自分で選んだプレゼント。くじ引きで当たった相手だから、深い意味はないけど。その子は誰からもらえるのか知らない。ちなみに明は10月27日に13歳になり、担任の先生から名前が刻印されたペリカン社のペンとお菓子をもらった。先生もプレゼントの輪に入っていて、たまたま明に当たったのだ。先生も仲間の一人みたいでいいなと思った。

コロナ禍:秋休みに南ドイツに行く計画があつたのですが中止にした。その感染者が増えて危険地域となり、観光など不要不急の移動は禁止となったから。こっそり観光で行って見つかったら、なんと最大2万5000ユーロ(300万円!)の罰金なので、あきらめた…。